

経営のヒント23 こだわりの似顔絵名刺

たかが名刺、されど名刺・・・小さな営業ツール、名刺の活用法は？

お客様の喜びの声が原動力に・・・参考になりますよ。

似顔絵入りの名刺を作成される方は「中小の会社社長・営業・サービス業・就職用に使うと学生の方も。」と多岐にわたる。その誰もが名刺を渡すことによって、「名前だけではなく『顔を覚えてもらえる事』」を期待してオーダーしてくるのだ。名刺の効果で一番大事な部分が似顔絵だと、最大に効果がでます。顔を覚えてもらうなら写真の方がと思われる事もありますが、写真だとその効果はありません。」普通の文字のみの名刺ではなく、わざわざちょっと高い代金を支払ってまで似顔絵入りをオーダーするのであり、その期待には応えなくてはならないだろう。

その製作に際して、やはり作品のクオリティーが重要であることは言うまでもない。似顔絵は、発注された本人に気に入って頂かなければいけません。その点を一番に考えて、満足のいく似顔絵を提供できていると思っています。」と、ユーザーが納得する作品に仕上げることは簡単なことではないはずだ。フリーに製作するイラストなどとは違い、美化して描けば良いというものでもなく、「自分の顔を毎日見ているからこそ、その人の思い描く自分の顔がありますので、その顔に少しでも近づけるように描かせて頂いています。」なかなか難しいのだ。

こうした発注者側と製作者側のイメージの違いを無くすために、修正を繰り返し、作品イメージをすり合わせる作業が必要となってくる。似顔絵が確定して商品を納品するまでに「似顔絵の修正の回数等、お客さまによって様々ですが、1点につき、制作5～7日、印刷7日です。」これだけの時間が掛かっているそうだ。当然、その背景には様々な事務的な作業も必要となる。やはり、ご発注メール以外にもお問い合わせ頂いているメールへの対応も数多くありますので、作業と事務をうまくやっていかなくてはと思っています。」同じくフリーで活動されているという奥様に事務関連の作業を任せるといったことも考えられているそうだ。

しかし、いかに体制を整えたとしても、手作業で一つ一つの作品を完成させていかなければならないため、いつかはオーバーワークに陥ってしまう可能性も高いだろう。現在の制作納期から少しずつ、期間が延びると思いますが、いつまでに提出、確認といった連絡を疎かにしないようにしたいです。」やはりインターネットという顔の見えない世界でのやりとりだけに、この点を少しでも疎かにするとあっという間に信頼感は薄れていくはずだ。メールを通じて個々のユーザーへ直接販売するという形態に難しさを感じたりすることも多いそうだが、やはりお客さまからの喜びの声が大きな励みになっているという。本当にお客様には、喜んでいただけてうれしいです。年賀状を頼んでいただいた方の半分は「名刺も」と言ってくださって、やはりお客様からのこういった声は、一番のやりがいになります。」こうした喜びを味わうことは、路上で若いアーティストが道行く人の似顔絵を描くような、非常に新鮮な刺激があるのかもしれない。そして、こうしたことの積み重ねがビジネスとして長続きする原動力になっていくものだろう。

経営のヒント

- ・ 似顔絵名刺をビジネスモデルにする！そんな発想が経営のヒントになるのでは？
- ・ 全てにこだわりを持つ事が、戦略思考なんだな。

私も似顔絵名刺に変えます。学ぶとは真似ることから始まるんだな！